

豊かな大自然の中で様々な野外体験を提供 道の認定NPO第一号、地域と歩み続ける

◇ 原点を訪ね、二〇年ぶりの再会

連載最終回の訪問先として、NPOというあり方が世の中に認知されるより前に萌芽が見られ、人口減少高齢化のすすむ地域で今、新しい公共の担い手として着実な事業を展開している活動を見たいと思った。特定非営利活動促進法（NPO法）施行からまもなく一五年。寄付者に税控除のメリットがある認定NPOがいよいよ本格的に増えると考えられる新制度によって、認定窓口が国税

庁から都道府県（または政令指定都市）に移管された。そこで、道庁による認定の第一号である南富良野町の「認定NPO法人どんころ野外学校」を訪問した。

個人的な経験で恐縮だが、筆者は約二〇年前の「どんころ野外学校」を少し知っている。南富良野町の山間部に移住した一家が大きな丸太小屋を建て、夏はカヌー、冬は犬ぞりといったアウトドア体験をさせてもらえる場所だった。夏の時期、その丸太小屋の二階に泊まったり、庭先にテントを張って過ごしたことがあった。あるじのメグロさんの野性的なたくましい山男の風貌は、まさに野外学校の「校長先生」だった。今回、認定NPO法人理事長として会ってくださった目黒義重さんである。二〇年以上前からいわば社会的起業のひとつの営みとして存在していた小さな事業体が、年を経るに従い地域に欠かせない存在に進化し、この先も持続可能な組織としてゆるやかに広がっていくことを確信できるお話をうかがうことができた。

二〇年前には、札幌から車で、石勝樹海ロードを経由し占冠から山間部を走って四時間近くかかったと思うが、今や道道道トナムICから一分ほどという時間で半分の時間で着く。大きな

丸太小屋は健在だった。外にはラフティング体験用だるうかドライスーツが干しであったり、カヌーがしまわれていたりする。五右衛門風呂にも以前入らせてもらったことをようやく思い出した。

◇ 野外体験の提供から教育・芸術へ事業拡大

主な事業として、ラフティング、カヌー、キャンプ、トレッキング、犬ぞりなど野外体験を一般向けに提供するほか、町内小中学校でのカヌーやカーリングの授業指導、道内外の学校や他団体での野外体験研修への講師・ガイド派遣、町内のスポーツ施設の指定管理者などを行っている。また、野外活動の指導者養成は一九八八年の活動開始当初からの大きな目的のひとつだった。

NPO法人格を取得したのは二〇〇三年。町有地を借りて事業をしていたことや、子どもが通う小学校にボランティアで野外活動などの指導をしていたことから、営利目的の法人格にはなじまないと考えていたところに、知人でNPOの組織形



目黒理事長夫妻。スタッフ手作りの大きな丸太小屋が活動拠点だ。

北海道の元気！ NPO訪問

50 認定NPO法人 どんころ野外学校

【最終回】

文・加藤知美



総合型地域スポーツクラブの活動は幅広い。カヌー、犬ぞり、クライミングなどアウトドア系が充実。

態に詳しい人から勧められ法人化した。それまでは、アウトドア体験やガイドツアーが中心だったが、NPO法人になってからは、「学校」の名のとおり教育事業や地域での社会貢献に力を入れるようになっていった。また、法人格取得により、スタッフの社会保障を整えたことから、働きがいのある職場としての価値が上がったり、若いスタッフの親にも安心してもらえる仕事となった。

この頃から、「地域のニーズには何でも応える」ということを意識し始めた。人口二七〇〇人あまりの小さな町で、NPOとして活動を続けるのは簡単なことではない。市場経済の論理だけではNPOも地域ももたないと考え、積極的にニーズに応えることで、仕事づくりにもなるし地域住民の暮らしも充実する。今ではスポーツ分野に限らず、芸術分野のプログラム提供も行っている。スタッフのひとりが中学校の美術の教員免許を持っていることもきっかけとなった。

二〇〇九年には、地域のスポーツ関係者や町教育委員会などとともに、総合型地域スポーツクラブ「みなみふらのSHCクラブゆく」を設立した。幅広い世

代が地域で様々な種目のスポーツを楽しむこの新しいタイプのスポーツクラブは、欧米では一般的だが、日本では文部科学省が推進して最近増加し、今や道内にも一〇〇を超えるクラブがある。地域住民で構成される「ゆつく」の会員は幼児から高齢者、障がい者など七〇〇人を超えている。Sはスポーツ、Hは健康、Cは文化のそれぞれ頭文字をとった。カヌー、クライミングのほか、ウォーキング、タグラグビー、といったスポーツの教室が運営され、フラダンスや歌声喫茶、美術教室などの文化教室も充実している。プログラムの約八割はどんころ野外学校のスタッフが指導に当たっている。日中はアウトドアガイドをこなして、夜はスポーツクラブといった勤務もあり少々負担は増えたが、何よりも地域と深く関わりが持てる意義は大きい。将来的にもNPOの活動の大きな柱として期待されている。

◇ これからも地域のニーズとともに

地域のニーズは、スポーツ、文化事業にとどまらない。今後は福祉にも取り組んでいくという。住民との連携のもと、地域福祉を展開し、さらに森林に恵まれた環境を活用した産業にもつなげていきたい考えだ。設立当初からアウトドアガイドとして先頭に立ってきたスタッフもヘルパー資格を取得し、体力的にはアウトドアの仕事がきつくなるこの先は福祉分野の事業を牽引する力となる。地域に根差した活動を深めてきたところに、二〇一二年四月からNPO法人制度が大きく変わ

り、さつそく認定NPOを目指した。新制度では、認定基準が複数用意され、収入のうち寄附金の占める割合が五分の一以上、または、三〇〇〇円以上の寄附者の数が年平均一〇〇人以上といった基準のほか、都道府県または市区町村が条例で個別指定を受けることでもよい。南富良野町が早々に条例制定したことも助けとなり、二〇一三年一月に北海道より認定を受けた。

スポーツや文化を通じて地域の課題に向き合い、ニーズに伝えていくことで、NPOも地域も活力がわいてくる。とりわけ子どもたちの笑顔が地域の将来を明るくする。スポーツクラブに参加して地元の良さを実感する人も多いという。子どもたちがいずれ町を出たとしても、地元の良さと地域に暮らした親の姿を思い出して戻ってくるのが願いとなっている。

◆ 認定NPO法人どんころ野外学校

所在地 空知郡南富良野町字落合1074番地
TEL 016715312171
WEB <http://www.donkoro.com/>



カーリングで五輪出場した目黒（現・金村）萌絵さんは、理事長の三女。現在はどんころ野外学校のスタッフとして活動。